



令和5(2023)年度

第5回

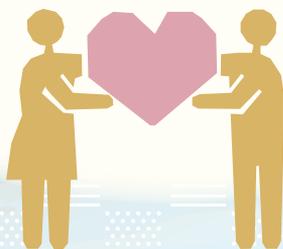


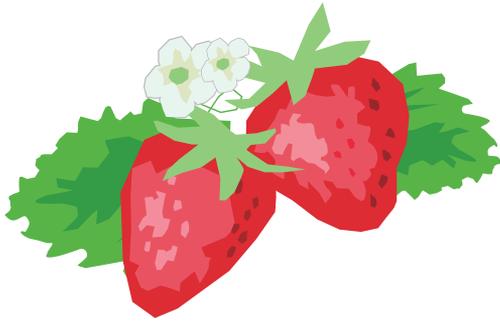
地域で輝く
ふくしのチカラ

大賞
グランプリ



公益的取組事例集





目次



- 1 あいさつ
- 2 地域で輝くふくしのチカラ大賞 グランプリ 概要
- 3 受賞者概要

- 取組紹介
- 4 最優秀賞 特定非営利活動法人 栃木県こども応援なないろ
『学校内フードパントリーの定期開催』
- 6 優秀賞 社会福祉法人 愛美会
『常設型居場所にじいろの開設』
- 8 優秀賞 &nurse
『「人とつながり、まちを元気にする」コミュニティーナース・まちの保健室』
- 10 特別賞 岩舟我が事・丸ごと事業協議体
『岩舟我が事・丸ごと事業』
- 12 特別賞 一般社団法人 SaySmileアカデミー
『いのちのバトンプロジェクト』
- 14 エントリー団体・取組紹介

- 15 おしらせ



あいさつ

我が国の社会保障制度は、子ども・高齢者・障害者などの対象者や生活に必要な機能ごとに、公的支援制度の整備と充実が図られ、人々の暮らしを支えてきました。

しかしながら、地域では、人口減少・少子高齢化の進行、地域のつながりの希薄化といった社会の変容等に伴い、育児と介護を同時に抱える「ダブルケア」、80代の親と50代の無職等の子が同居する「8050問題」、18歳未満の子が家族の介護や世話をを行う「ヤングケアラー」など、個人や世帯が抱える課題が多様化・複雑化するケースや、日常生活に身近なごみ出しや買い物に関する悩みなど、既存の公的支援制度では対応が困難な「制度の狭間」にあるケースが顕在化してきました。

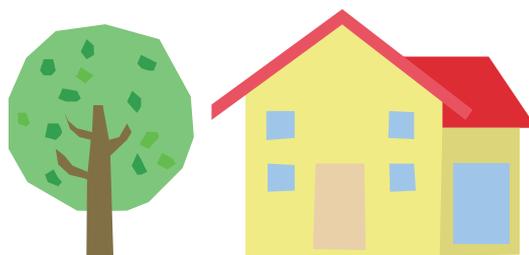
このため、制度ごとの縦割りや「支え手」「受け手」という関係、世代や分野を越えて、地域住民や地域の多様な主体が、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、そして地域とともに創っていく『地域共生社会の実現』が求められているところです。

こうした中、栃木県では、社会福祉法人が行う「地域における公益的な取組」をはじめ、多様な主体が実践する地域のニーズに応じた様々な支え合い活動が、『地域共生社会の実現』に大きく資するものであると考え、優れた取組を行う法人等を表彰し、活動内容を広く発信することによって、地域における支え合いが県内で幅広く展開されるよう、「地域で輝くふくしのチカラ大賞（グランプリ）」事業を実施して参りました。

このたび第5回となりました本事業にエントリーされた法人・団体等の取組につきましては、いずれも、その地域のニーズや社会資源の状況などを踏まえつつ、地域の様々な関係者と協働しながら、創意工夫をこらして取り組まれている素晴らしいものでした。

この事例集はそれらの取組をまとめたものです。社会福祉法人をはじめ、福祉に携わる皆様方にとって、地域共生社会の実現に向けて、地域の多様な主体の参画による取組を更に進めていく上での参考となれば幸いです。

栃木県保健福祉部長 岩佐 景一郎



ロゴマーク

地域で輝くふくしのチカラ グランプリ 大賞

対象となる取組

社会福祉法第24条第2項に定める「地域における公益的な取組」のほか、地域のニーズと地域における社会資源の有無などを踏まえつつ、自主性・創意工夫に基づき実施する地域における支え合いや助け合い等、「地域福祉の向上」や「地域共生社会の実現」に資する取組を対象とします。

対象団体

- (1) 県内に本部を有する社会福祉法人
- (2) 県内に本部を有し、福祉サービスを行う特定非営利活動法人・一般社団法人
- (3) 県内を主たる拠点として活動する任意団体等

応募結果と審査について

評価項目

応募受付期間

令和5(2023)年8月1日(火)～10月13日(金)

応募件数

15団体 15事例

審査機関

地域で輝くふくしのチカラ表彰委員会

委員長 赤羽 幸雄

1 地域連携・貢献度

2 創意工夫

3 独自性

4 成果

5 発展・継続性

地域で輝くふくしのチカラ大賞 実践フォーラム

日程 令和6(2024)年1月12日(金)

会場 栃木県庁本館6階 大会議室2 及び
Zoomウェビナー形式による配信

プログラム

- 第1部 表彰式
- 第2部 受賞団体 事例発表会
- 第3部 活動報告会

活動報告会

過去受賞団体によるパネルディスカッション

パネリスト

- | | |
|---------|----------------------------|
| 第1回最優秀賞 | 社会福祉法人 足利むつみ会 |
| 第1回優秀賞 | 社会福祉法人 パステル |
| 第2回最優秀賞 | 社会福祉法人 蓬愛会 |
| 第3回最優秀賞 | スマイルきくさわ(第2層協議体) |
| 第3回特別賞 | にしなすケアネット |
| 第4回最優秀賞 | 社会福祉法人 恩賜財団済生会支部
栃木県済生会 |

受賞団体



後列 左から岩舟我が事・丸ごと事業協議体／社会福祉法人愛美会／&nurse／一般社団法人SaySmileアカデミー
前列 ふくしのチカラ大賞表彰委員会 委員長／特定非営利活動法人 栃木県こども応援なないろ／栃木県保健福祉部 部長
敬称省略

最優秀賞

**特定非営利活動法人
栃木県こども応援なないろ**
宇都宮市

学校内フードパントリーの定期開催

優秀賞

社会福祉法人愛美会
さくら市

常設型居場所にじいろの開設

&nurse
下野市

**「人とつながり、まちを元気にする」
コミュニティーナース・まちの保健室**

特別賞

岩舟我が事・丸ごと事業協議体
栃木市

岩舟我が事・丸ごと事業

一般社団法人SaySmileアカデミー
宇都宮市

いのちのバトンプロジェクト

学校内フードパントリーの定期開催

特定非営利活動法人 栃木県子ども応援なないろ



取組をはじめたきっかけは何ですか？

2021年10月に、学生服リユースのお店をOPENしたときのことです。小学校の副校長先生や、ソーシャルワーカー、子ども食堂運営者の方々など、多くの人々に子どもの飢餓のお話を聞く機会が増え、そこで初めて、宇都宮市のこどもの飢餓の深刻さに気が付きました。

市の調査では、市内で11.8%の子どもの経済的貧困の状態にあります。息子は高校生ですが、その友人の中にも、保護者が料理をせず家で満足にごはんを食べられない子どもがいました。飢餓と貧困は私たちの身近な問題であることを、改めて思い知らされました。

そのような経緯から、支援対象を幼稚園児から大学院生まで大きく広げ、子どもの食の支援をする団体を立ち上げました。

どんな取組を行っていますか？

「今」困っている子どもを「今」助けることを目的として、地域企業より廃棄予定のパンなどの食品を無料でご提供いただき、中学校、高等学校、大学内で子ども達に配布するフードパントリーを開催しています。

子ども食堂に行くことで、「困窮世帯」だと思われるのではないかと不安を持っている子ども達もいると思いますが、私たちは「学校の中」で開催するフードパントリーなので、貧困の子どもを特定することなく、平等に食の支援ができています。

また、子ども達に「地域企業の食品ロス削減のお手伝いをしてくれてありがとう」と伝えることで、「支援される側」「貧困だからパンをもらっている」という心理的負担も軽減できているのではないかと思います。

長期休暇中は学校がお休みになってしまうので、地域協議会やPTA、自治会の協力を得て、地域コミュニティセンターや地区市民センターで実施しています。

配布しきれなかったパンは、近隣の部活動に受入れをお願いし、当会で食品を独占せず、より多くの子ども達にパンを配ることのできる仕組みを作りました。

取組を行う際のポイント

実施前に学校教職員や地域協議会など、関係者に向けて私たちの活動内容と実績をプレゼンし、私たちからお願いしたいこと、役割分担などを明確にしました。

提供に当たっては、アレルギー対応は不可であることや、廃棄予定の食品であるため、当日中に子ども達に食べてほしいことを学校からお知らせしていただいています。また、食中毒予防のための食品保管場所の確保など、事前の準備などでも協力を得ながら進めています。

開催場所は学校内や公共施設での開催にこだわっています。学校内であれば、当会メンバーだけでなく教職員の目もあるのでトラブルも起きにくく、子ども達も安心して参加することができます。

これからの活動について

実施している中学校の校長先生からは「不登校の子どもが学校に来るきっかけになるかもしれない」との期待の声をいただいています。また、子どもの貧困や飢餓を日頃から目の当たりにしている学校の先生方からも、今後もぜひ継続してほしいとの声をいただいています。

現在公立中学校を対象に、フードパントリー希望校を募集しております。2年間の実績により当会の活動が徐々に認知され、公立中学校でも受け入れていただけることが増えております。1人でも多くの子どもを笑顔にできるよう、資金調達の計画を進め、開催回数や対象地域を拡大していきます。

こども応援なないろ 活動SNS

Instagram



@NPNONANAIRO2021

Syncable



note



学校内フードパントリーの定期開催

- ◆場所 宇都宮市の大学・高等学校・中学校など（毎月4か所）で開催
- ◆対象 幼稚園生から大学院生まで
- ◆活動内容
 - ・学校内フードパントリー（毎月4回）
 - ・地元企業から廃棄予定のパン等の提供を受け、学校内等で子どもたちに配布。
 - ・前年度延べ900人の子どもたちが利用。2021年10月の取組開始から延べ3,550人が利用。
- ◆費用 無償提供

子ども達が「生まれてきて良かった」と思える社会文化・未来を創り出す地域企業と子ども達の架け橋となれるよう貢献し続けます。

「見えない貧困」という言葉を耳にするようになってから2年、物価高などにより子どもを取り巻く環境は一向に改善されておられません。家の近くにこども食堂がないなど地域による支援格差を乗り越えるために、誰一人取り残さない「学校内フードパントリー」を開始いたしました。2年前はアレルギー問題などで活動の受け入れが難しかった学校でも、アレルギー問題を上回る子どもの貧困や飢餓問題が深刻になっているのではないのでしょうか。

当会が学校内で定期的、継続的そして平等に子どもの食の支援ができているのは、ご協力くださっている地域企業様のおかげです。地域企業様と子ども達の架け橋となることで、子どもの飢餓問題を少しでも解決できるよう努めます。

子ども達が「生まれてきて良かった」と思える社会文化・未来を創り出すことが当会のビジョンです。子どもに関する課題に取り組み、解決力の高いチームとして社会貢献、地域貢献を続けて参ります。

特定非営利活動法人 栃木県こども応援なないろ 理事長 皆川 純子



団体概要

団体名 | 特定非営利活動法人 栃木県こども応援なないろ

所在地 | 栃木県宇都宮市東今泉2-3-30

代表 | 理事長 皆川 純子

事業内容 | 子どもの食の支援活動、子どもの学生服支援、子どもの学習支援など

評価のポイント

地域企業から廃棄予定のパンなどの食品を無料で提供してもらい、学校内で子どもたちを対象にフードパントリーを開催するといった内容であり、地域企業や学校などと連携を図りながら広域的に取組を展開している点、経済的困窮状態にある家庭などを特定されないように工夫している点が高く評価されました。



取組をはじめたきっかけは何ですか？

核家族化や高齢世帯の増加等の社会背景があり、地域の支え合いの必要性を感じていました。そのため、近所の方々が集う場を作り、地域住民同士の繋がりや助け合いの関係性づくりを目指し平成26年に共生型の通いの場として、活動を始めました。

平成29年7月と令和3年4月に開催場所を変えながら、徐々に規模を拡大し、令和4年5月に現在の常設型通いの場となりました。

私たちは場所の提供だけでなく、内容が伴えば介護予防や生きがいづくりにもつながると考え、運営人と地域の方々の協働で「にじいろ」という地域の居場所を作り上げてきました。

どんな取組を行っていますか？

施設の交流スペースを常設型通いの場として開放。平日の10:00～16:00にオープンスペースを開設しています。その他、要望があれば夜間や土曜・日曜日にも会場の提供を行っています。

その中で、毎日1～4回、健康体操やヨガ、手芸や裁縫等の教室を開催しています。

季節ごとに、子育て世帯が参加しやすいようマルシェや夏祭りといったイベントの開催、映画上映会、相談コーナーの設置のほか、地元中学校の体操ジャージのリユース活動やフードバンクなど、小さな子どもから高齢者まで幅広い

層が活動できる居場所づくりを行っています。

取組を行う際のポイント

取組の対象となるのはさくら市全域です。また、子どもから高齢者までを対象にしているため、月間の予定表を作成して、SNSや施設、市役所窓口で情報発信を行っています。

行政区長・民生委員を中心にネットワークを構築し、回覧板等で広報してもらいながら、地域に生活課題を抱えた人がいれば相談を受けています。

また、他地区の常設型通いの場や隣接サロンと情報交換や運営互助を行っています。

地域との繋がりや関係性を深めるために、情報発信を行うことや、ニーズ把握のための情報収集、地域全体で居心地の良い場所を作るための意見交換をしながら企画・運営しています。

これからの活動について

取組開始当初は、1日当たり10～15名程度の参加者だったのが、今では30名を超える日もあります。

徐々に教室の種類や開催頻度を増やすことができている、利用者側も選択の幅が広がっているのではないかと思います。

今後は、地域貢献を考えている地元企業とタイアップし夏祭りの開催や、トレーニングマシンを導入して、教室

を開催しているとき以外にも自由に体を動かせる環境を整えていこうと思います。

また、男性の利用者が少ないため、男性が参加しやすいよう麻雀や将棋等ができる環境づくりや、男性の料理教室などを企画する予定です。

高齢者だけでなく、障害や認知症があっても活躍できる場を作るため、様々な活動を企画していきたいと思えます。

今後も、いつでも通うことができ、専門職とつながりが持てる「相談の場所」「頼れる場所」「寄り添ってもらえる場所」として地域に根差していくことを目指していきます。

活動チラシ



常設型居場所にじいろの開設

- ◆場所 栃木県さくら市氏家3260-1
(特別養護老人ホームつきみの杜内)
- ◆対象 さくら市在住の子どもから高齢者まで
- ◆活動内容 毎週月曜～金曜日
10時～16時にオープンスペースを開設
その他、必要に応じて夜間や土日にも会場を提供
 - ・各種教室の開催(健康教室、ヨガ、エアロビクス、手芸、裁縫等)
 - ・各種イベントの開催(マルシェ、夏祭り、映画上映会等)
 - ・中学校ジャージのリユース活動
 - ・フードバンク活動
 - ・相談コーナーの設置 など
- ◆費用 通いの場としての利用は無料
教室によって 参加費無料～500円程度

皆様の個性や取り組みが「虹」のように輝き、地域に活力をもたらします。
お互いに尊重し、成長し合う場所を目指し、取り組みを進めてまいります。



「にじいろ」は、その名の通り、多彩な色彩や多様性を表現するもので、参加される皆さまの個性や様々な取り組みが、まるで虹のように美しく輝き、地域に活気と活力をもたらしています。この素晴らしい地域のコミュニティを支える皆さまに心から感謝いたします。これからも地域の皆さまがお互いを尊重し、支え合い、共に成長し合う場所であり続けることを目指し、取り組みを進めてまいります。

社会福祉法人 愛美会 理事長 家守 美由紀

団体概要

団体名 | 社会福祉法人 愛美会
所在地 | さくら市氏家3260-32
代表 | 理事長 家守 美由紀

事業内容 | 老人福祉施設の運営 など

評価のポイント

ボランティアの方が企画する各種教室やイベントに対する会場を提供するほか、相談コーナーの設置、中学校ジャージのリユース、フードバンクといった様々な支援活動を展開しており、子どもから高齢者まで幅広く参加しやすい居場所づくりに取り組んでいる点、支援機関等との連携により相談支援体制を構築している点が、高く評価されました。

「人とつながり、まちを元気にする」コミュニティーナース・まちの保健室
&nurse



取組をはじめたきっかけは何ですか？

看護師として働いていた30代の時に、大病を患い「患者」としての立場を経験することになりました。

その時、行き場のない不安感や誰かに相談したいと思っても、病院や関係機関、市役所などに相談するのは心理的なハードルが高く感じられました。周囲にも同様の思いをした人がいたことから、「身近な地域で、ふらっと行ける相談窓口」へのニーズは潜在的にあると考え、2021年10月にこの取組を始めました。

私たちは「相談につながるハードルを下げること」や、「信頼できる関係を健康な時から築き、緩やかなつながりを継続していくこと」により、孤独や孤立を感じることのない地域を目指していきたいと考え活動しています。

どんな取組を行っていますか？

毎月第4水曜日、天平の丘公園の一角で「まちの保健室」を開催しています。

看護師としての経験や自身のコミュニティーナースの在り方として「五感で聴く(言葉で表現できない感覚も大切に)」ことを基礎に、ふらっと立ち寄れる気軽さ、敷居の低さを大切にするという思いから、天候に配慮しつつ屋外での開催を継続しています。

当初は2人で始めた取組ですが、SNSの情報発信から興味を持った方や、相談者として訪れていた方が支援に加わるなどし、現在は7名で活動しています。これまで

の活動でつながった地域資源や専門家への橋渡しを行っています。

取組を行う際のポイント

「相談窓口」と聞くと、室内のかしこまった雰囲気ですることを想像してしまうかもしれませんが、私たちの活動は、周囲を自然に囲まれた公園で開催することで、開放的で相談しやすい雰囲気を作り出しています。

活動するときには、どこに相談したら良いか分からないことへの相談窓口として、「悩みの段階から早期介入できるような、参加しやすい雰囲気づくり」や、「相談者自身が気持ちを整理し、思いを吐き出すことができるよう中長期的に伴走していくこと」などを大事にしています。

公園での活動以外に、イベント出店や高齢者サロンへの訪問、看護学校の生徒に向けた講義も行っていますが、活動を継続していくためには何よりも私たち自身が楽しみながら、幸せややりがいを感じることができるよう、メンバー同士のコミュニケーションを大事にしています。

これからの活動について

コミュニティーナースという活動に興味を抱いている専門職が多くいる一方で、下野市近隣で活動している方はまだまだ少ないことから、同様の活動をしたいと考えている方のサポートを実施しています。

これまでの活動を通じて、多くの方とつながりを持つことができました。「つなげる」ためには「つながる」必要があることを実感しています。今後もこの活動を継続していくためにも、行政との連携や、行政職員に活動を理解してもらえるような働きかけを行っていききたいと思います。

最近では、メンバーが新たなピアグループを設立するなど、&nurseから派生した地域活動が広がっています。今後さらに、地域の中で自分の経験や得意なことを活かして活動したいという想いのある方をサポートしていきたいと思っています。



&nurse 活動チラシ

活動SNS Instagram



AND_NURSE

相談支援窓口「まちの保健室」

- ◆場 所 下野市 天平の丘公園内
- ◆対 象 誰でも
- ◆活動内容
 - ・毎月第4水曜日 公園の一角で「まちの保健室」を開催
 - ・予約不要
 - ・最新情報はSNS(Instagram)で発信
 - ・その他 イベント出店・高齢者サロン訪問、看護学校向け講義、行政との連携等
- ◆費 用 無料

地域の中に「頼れる誰かがいる」こと、そして「誰かを思いやる」ことのできる人が溢れているような未来を信じて、これからも活動を継続します。



自身の体験をもとに始めた小さな活動ですが、想いに共感してくださる方や活動の趣旨を理解し、応援してくださる方が増えてきており、大変嬉しく思うと同時に身の引き締まる思いです。

地域の中に「頼れる誰かがいる」ことは、とても心強いことだと思います。「誰かを思いやる」ことのできる人が溢れているような未来を信じ、これからも地道に活動を継続していききたいと思います。

&nurse 代表 高山 由香利

団体概要

団体名 | &nurse

所在地 | 下野市下古山976番地

代 表 | 高山 由香利

事業内容 | コミュニティナース事業

評価のポイント

まちの保健室の開催を通じて相談支援等に取り組んでおり、誰でも気軽に参加できるようにあえて市内の公園で開催し、必要に応じて支援機関等につなげている点、イベントへの参加や高齢者サロン等への訪問、看護学校での講義等を通じて取組を広げている点が、高く評価されました。



取組をはじめたきっかけは何ですか？

協議体の設置は平成29年11月です。

岩舟地区内の既存団体(約50団体)に呼びかけて、「我が事・丸ごと事業」の第2層協議体の話し合いを始めました。

私たちの活動する岩舟地区は、同じ「岩舟地区」でも街中と農村部によって、人口や高齢化率が異なります。そこで、自分で歩いて行けるなじみのある地域として、岩舟地区を旧小学校区に分け、第2層協議体メンバーや関係者などの地域住民が主体となって活動する第3層協議体を4つ設置し、それぞれで我が事丸ごとの取組を進めていくことになりました。

どんな取組を行っていますか？

岩舟我が事・丸ごと事業協議体とは、栃木市岩舟地区における住民同士の話し合いの場です。

第3層協議体では、それぞれ毎月1回会議を開催して、一人ひとりが安心して地域で生活していくためにはどうしたらよいか、行政サービスやフォーマルサービスでは行き届かない自助や互助の部分について、自分たちでできることを話し合い、地域の状況に応じた実践活動を展開しています。

例えば、岩舟地区の中でも14歳以下の人口が最も多い岩舟地域では、月1回小学校前でのあいさつ運動、子どもの見守り活動強化のためのボランティア交流会や

世代間交流事業などを行っています。

静和地域や小野寺南地域では、高齢者の買い物支援を目的とした無料の送迎サービスを行っています。

高齢化率の高い小野寺北地域では、認知症の方を見守り、差別なく当たり前で暮らせる地域を「オレンジタウン」と呼んで、認知症に対する理解の推進のため、寸劇を交えた認知症サポーターの講座を開催しています。

取組を行う際のポイント

毎月開催される協議体会議への参加者は年間延べ860名を超えます(令和4年度実績)。これだけ多くの方が協議体活動に参加していることは岩舟地区の強みだと思います。

自治会、民生委員・児童委員、更生保護女性会、青少年育成会議、子ども会育成会、社会福祉法人など、地域の各種団体や個人ボランティアなどの有志の方々が当事業に関わり、できることをできる範囲で、そして人と人の顔が見える活動を実施することで、支え合える地域づくりの一端を担っています。

また、当事業の事務局は栃木市社会福祉協議会岩舟支所が担っており、各協議体の活動を支援しています。

これからの活動について

これからも、地域のことを話し合いながら、支え合える地域づくりを進めていきますが、現在各協議体では、メ

ンバーが固定化し、今後新しい意見の吸い上げができなくなることを懸念しています。地域の若者に関心を持ってもらえるような活動を展開しながら、メンバーや地域協力者の確保へとつなげていければと考えています。

また、買い物支援送迎サービスは、高齢者の方の足(交通)の課題解決や生活支援に関する活動のひとつとして、現在2つの協議体で実施していますが、他の協議体においても民生委員等の協力を得ながら、事前アンケートを行い、地域におけるニーズの状況を確認しています。少子高齢化が今後も進んでいく中、このような活動への需要はますます高まるのではないかと想定されますので、岩舟地区全体での活動展開を目指していきます。



岩舟我が事・丸ごと事業

- ◆場所 栃木市岩舟地区
- ◆対象 岩舟地区住民
- ◆活動内容
 - ・旧小学校学区ごとの第3層協議体による会議の開催(毎月)
 - ・地域支え合いに関する各種実践活動
 - 買い物支援送迎サービス／通学路危険箇所点検／集い・相談イベントの開催(福祉相談・資料の閲覧、軽スポーツ体験、移動スーパー等)／あいさつ運動の推進／こどもの見守り活動の強化(ボランティア交流会、子ども110番の家のマップ化・点検活動)／世代間交流イベントの開催(アグリ体験、園児と高齢者の手紙や絵の交換交流・スポーツ交流)／行事や祭礼のマップ作り／傾聴に関する研修会／高齢者見守り活動(イエロータウン運動)の推進／スポーツ交流会／啓発チラシの発行／オレンジタウンの推進(認知症に関する理解促進活動)／ふるさとかるたの作成／防災に関する取組(要支援者の把握、独自の避難場所検討、啓発活動) など

他人事も我が事のように考え、支え合えるまちづくりを目指して、
10年後20年後もこの街に住んでよかったと言われる取り組みを進めています。



このたびは特別賞をいただき誠にありがとうございます。この事業に関わる多くの方々の力によっていただくことのできた賞であると思います。

我々は自分たちの住む地域において、他人事も我が事のように考え、支え合えるまちづくりを目指しています。一人ひとりができることをできる範囲で活動していくことがよりよい地域をつくります。これから10年後20年後も住んでよかったまちと思われるような取り組みを進めていきますので、引き続きご支援ご協力よろしくお願いたします。

岩舟我が事・丸ごと事業協議体 委員長 海老沼 一利

団体概要

団体名 | 岩舟我が事・丸ごと事業協議体

所在地 | 栃木市岩舟町三谷1038-1(事務局:栃木市社会福祉協議会岩舟支所) 事業内容 | 地域支え合い活動

代表 | 委員長 海老沼 一利

評価のポイント

2層協議体として、自治会や民生委員、シニアクラブ、身体障害者福祉会、更生保護女性会、青少年育成会議、子ども会育成会などの各種団体が連携しながら、買い物支援や地域防災、世代間交流等の支え合い活動に取り組んでおり、さらに、3層協議体それぞれが積極的に地域ニーズを把握し、主体的・計画的に取組を展開している点が評価されました。



取組をはじめたきっかけは何ですか？

私たちは、がん専門運動士や助産師、WEBデザイナーがそれぞれの分野を生かして、子育てしやすい環境づくりと「少子化対策」に取り組んでいこうと立ち上げた団体です。

様々な幸せの形がある中で、いざ子どもを授かりたいという選択をしたときに、健康体でいる大切さ、家族を持った時の健康管理や心身を思いやる大切さ、生きる喜びを感じられることが現代では重要であり、それを各世代や成長過程に合わせて伝えていくことが必要だと感じています。

自分の心身のことを、知識やワークショップを通して学ぶことで自他への思いやりの気持ちや、子育てへのポジティブな気持ちを心の底から楽しみ・喜ぶことができれば、きっと「いのちのバトン」もつなげることができる。その第一弾としてはじめたのが「いのちのバトンプロジェクト」です。

どんな取組を行っていますか？

タオルハンカチで生理用ナプキンポーチの製作配布を行っています。

具体的には、宇都宮短期大学附属高等学校生活教養科の生徒さんに製作依頼し、生理教育の始まる小学4年生の女の子あての手書きメッセージを添えてもらいました。

メッセージ付きのナプキンポーチは、宇都宮市内3か

所の小学校へお渡しし、受け取った小学生から、製作者の高校生本人に向けてお礼のメッセージを送るという交流を行っています。

高校生の心温まるメッセージから、人を思いやる気持ちがしっかりと育まれていると感じました。

このほか、県内小中学校高校や企業の依頼を受けてがん予防・メンタルヘルズ講座、包括的性教育などを担当し、また、オンライン講座の開催も行っています。

取組を行う際のポイント

SNS利用化が進む昨今では、若年層の脳疲労からくる心身の不調も多くみられます。多くの脳科学者が『脳機能を豊かにする最も効果的な方法は運動である』と、証明している今、健康運動を自分事として捉えてもらうために、『座学』のみではなく『実型、ワークショップ』を主とした講座を開催しています。

心と体を思いやる気持ちを育み、性についての健康を学び、心身の健康を保つ運動を実践する。これを助産師と運動指導士で広めていくことが、私たちの取組の特徴だと思います。

また、当法人の理事が地域コーディネーターや、栃木県スポーツ推進評議員などを担い、幅広い世代から直接の声や県内の状況などを感度高く聞きししています。これまでの縁を通して、活動の協力をお願いします。

これからの活動について

宇都宮短期大学附属高等学校は、引き続きの協力を快諾してくれているので、より多くの小学生にポーチを贈れるよう、材料の寄付などを募っていきます。

自宅にあるタオルハンカチを、簡単に縫うことで生理ポーチに仕立てることができます。見た目はハンカチなので、初めて生理を迎える子でも恥ずかしくなく持ち歩けるものなので、この取組が栃木県から全国に広がってくれと嬉しいです。

これからもがん専門運動指導士、助産師、公認心理士、Webデザイナーなど様々な知識と長年の経験を生かした活動をしていきたいと思えます。

SaySmileアカデミー メンバー

左から柚木 理恵／並木 裕子／田原 由香里



SaySmileアカデミー
ホームページ



いのちのバトンプロジェクト

◆場 所 宇都宮市

◆対 象 ・宇都宮短期大学附属高等学校
・宇都宮市立西が岡小学校
・宇都宮市立宝木小学校 その他

◆活動内容 高校生が製作したナプキンポーチに手書きのメッセージを添えて、宇都宮市内の女子児童に配布し、受け取った女子児童からのお礼のメッセージを返す交流のプロジェクト

◆費 用 無料

どの年代でも健康体で、アクティブに活動し、笑顔になる社会を目指して。
皆さんの生と性が輝くようSaySmileアカデミーは活動していきます。



少子高齢化の社会課題がある中で、どの年代でも健康体でアクティブに活動できる人を育むことが、社会の豊かさにつながるのではないかと考えています。お元気なシニアの方が地域や子供達を見守ってくれています。活力あるビジネスパーソンが躍動しながら社会を築き、未来を描ける子供たちが元気いっぱい笑顔になる社会を目指して。皆さんの生と性が輝くよう”SaySmileセイスマイル”アカデミーは活動していきます。

一般社団法人 SaySmileアカデミー 代表理事 並木 裕子

団体概要

団体名 | 一般社団法人SaySmileアカデミー

所在地 | 宇都宮市一の沢2-15-28 102号

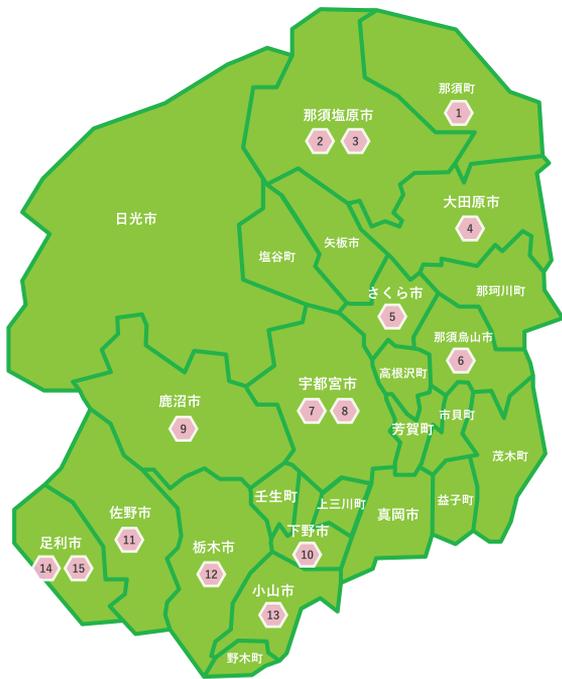
代表 | 代表理事 並木 裕子

事業内容 | 健康運動指導、包括的性教育、Webデザイナーなど

評価のポイント

タオルハンカチを使ったナプキンポーチの製作・配布やオンラインフィットネスの開催等を通じ、少子化対策・子育て支援に貢献するなど、若年層の女性を中心に、学校や保育園を巻き込みながら取り組んでいる点に関し、独自性が高く、他の地域にとって参考となる取組として評価されました。

エントリー団体・取組紹介



- 1 **那須子ども食堂 ザ・テーブル**（那須町）
子ども食堂及び子どもの居場所づくり活動
子ども食堂の運営。軽食の提供のほか、学習支援、子供向けイベント（絵本の読み聞かせ等）を実施。地元中学校と連携し、子どもの居場所づくりを行っている。
- 2 **ちいきカフェ円と縁**（那須塩原市）
高齢者居場所の運営
自宅を利用し、月2回高齢者の居場所を運営するほか、市民対象の認知症・終末期の過ごし方に関する講演会等を開催。生活課題のある高齢者と包括支援センターや社協等とのつなぎ役としての役割も果たす。
- 3 **地域コーディネーター隊**（那須塩原市）
地域と学校等をつなぐ(コーディネーターする)仲間
地元中学校共催で防災訓練や防災講話の実施、地元消防団による消防機器の操作・展示や消防団員との交流、地域見回りによる防災マップの作成などを行い、地域交流の活性化を図っている。
- 4 **佐久山地区社会福祉協議会外出支援事業部**(大田原市)
地域の高齢者などの外出支援サービス(病院への通院、買い物、行事への参加など)
地区住民を対象に病院への通院・買い物・地域行事への参加等の外出を支援するサービスを実施。利用料金は無料。大田原市社協の車両を借用し、ボランティアにより車両を運行している。
- 5 **社会福祉法人 愛美会**（さくら市）
常設型居場所にじいの開設
平日10時から16時までオープンスペースを開設。必要に応じて夜間や土日也会場を提供をしている。各種教室のほか、マルシェや相談コーナー、中学校ジャージのリユース活動、フードバンク等の活動を行っている。
- 6 **日野町縁の会**（那須烏山市）
地域連携支援活動
自治会内限定の活動として、ボランティア組織を有志で立ち上げる。民生委員・児童委員からの要請を受けて高齢者宅の除草、枝切り、地域内の美化活動やイベントの開催などを行う。

- 7 **特定非営利活動法人 栃木県子ども応援なないろ**(宇都宮市)
学校内フードパントリーの定期開催
地域企業より廃棄予定のパン等食品の無料提供を受け、宇都宮市内の学校でフードパントリーを実施。声掛けを工夫することにより貧困の子供を特定することなく、食の支援を実施している。
- 8 **一般社団法人SaySmileアカデミー**（宇都宮市）
いのちのバトンプロジェクト
高校生が手作りした生理用ナプキンポーチを市内3校の女子児童に配布。ポーチには手書きのメッセージを添え、受け取った児童から贈ってくれた高校生へお礼のメッセージを返すという交流に取り組んでいる。
- 9 **特定非営利活動法人レインボー**（鹿沼市）
各種子育て支援事業の企画・実施
子育て交流会・おしゃべり会など子連れで参加できる会合や講習会の開催、保護者向け学習講座などを実施。その他鹿沼市委託事業（赤ちゃん・妊婦ふれあい体験交流事業他2事業）の受託など。
- 10 **&nurse**（下野市）
**「人とつながり、まちを元気にする」
コミュニティーナース・まちの保健室**
月1回、市内の公園において「町の保健室」（無料相談）を実施。ふらっと立ち寄れる気軽さ、敷居の低さを大切に屋外で開催を継続。行政と連携したイベントも開催している。
- 11 **社会福祉法人 森友会**（佐野市）
野上地区ふれあい買い物支援
地域課題に高齢者の「買い物難民」の存在があり、この課題解決のため施設送迎車を活用した買い物支援及び見守り活動を開始。送迎車両のほか、狭い山道は別途軽自動車を利用するなど、玄関までの送迎を実施している。
- 12 **岩舟我が事・丸ごと事業協議体**（栃木市）
岩舟我が事・丸ごと事業
岩舟地域の第3層協議体が地域課題解決のため様々な実践活動を実施。買い物送迎、世代間交流事業、オレンジタウン運動の推進など、地域に住むあらゆる人が「丸ごと」つながることで支え合える地域作りを行う。
- 13 **大谷地社会福祉協議会**（小山市）
**高齢者等日常生活支援から発展させた地域の絆づくり
～住み慣れた地域でひとり一人をつなぐ取組～**
高齢者の孤立・孤食の解消、つながりの継続を目的に取組み開始。高齢者等生活支援ボランティアを結成し、地域高齢者のお困りごと相談とマッチングを行う。お昼を一緒に食べる会や本の読み聞かせなどを行っている。
- 14 **社会福祉法人 るりこう会**（足利市）
**DXにより発見した課題解決のための
体験型健康医学教室**
人材不足解消のためDX化に着手。DX化により生まれた時間を活用して、地域のフレイル認知症予防として体験型健康医学教室（りんご教室）を開催。有料のコースのほか、入門編の無料出張講座を実施。
- 15 **やばがわの風**（足利市）
矢場川地区子供と高齢者の友愛サロン
自治会長・民生委員・児童委員・育成会OBなど幅広い世代で構成。地区社協・自治会・老人クラブなど様々な団体が垣根を越えて集い、子ども食堂・高齢者カフェ・子ども矢場川ライン下り・清掃活動等の活動を行う。

栃木県内の社会福祉法人(施設)がみんなで行き組む
栃木県社会福祉法人による「地域における公益的な取組」推進事業



いちごハートねっと事業



栃木県内の社会福祉法人が「栃木県社会福祉法人による「地域における公益的な取組」推進協議会」を組織し、地域の生活困窮者や福祉制度の狭間で困っているの方々に対する相談・支援を行う「いちごハートねっと事業」を行います。

地域において様々な「生活のしづらさ」を抱えながらもどうしてよいか分からずお悩みの方や必要な支援が受けられない方、孤立している方などに対し、社会福祉施設の持つノウハウや機能、ネットワークを活かし、福祉に関する総合的な相談に応じる「おこまり福祉相談」や各社会福祉施設が特性を活かして取り組む様々な「あんしん支援事業」を実施し、サポートしていきます。

一期一会の出会いを大切に地域暮らしをネットワークで支えます。

おこまり福祉相談

おこまり福祉相談窓口

参加する全ての社会福祉施設（保育所、児童福祉施設、障害者支援施設、老人福祉施設、救護施設等）で、施設種別の専門に関わらず、「福祉に関する何でも相談窓口」を設けています。

いちごハートねっと事業の看板のある施設にお越しください！

地域にお住まいで、生活や福祉のことでお困りの方や、行政や社会福祉協議会などからご紹介いただいた方の相談をお受けいたします。



受け止める

どのようなご相談にも、丁寧に対応いたします。お困りごとの内容を丁寧に受け止め、適切なアドバイスやサポートを行います。

あんしん支援事業

例) 中間的就労、要援助者緊急支援、子ども食堂、学習支援 などニーズに応じたメニュー

地域の社会福祉施設等のネットワークによる支援

地域にある様々な社会福祉施設等と連携して相談者を支援します。

相談を受けた施設での継続的な支援

それぞれの施設の特性を活かした支援事業を実施し、相談者を継続的にサポートしていきます。

様々な制度につなぐ

福祉事務所や社会福祉協議会等関係機関と連携し、各種支援制度につなぎます。

※あんしん支援事業は、今後、相談状況等を踏まえて、順次実施していきます。

いちごハートねっと事業に関するお問い合わせ先

栃木県社会福祉法人による「地域における公益的な取組」推進協議会

〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3F 栃木県社会福祉協議会 内
TEL028-305-5515 FAX028-622-5788 URL <https://www.ichigosoudan.jp/>

フェイスブックはじめました。



包括的な支援体制の確立に向けて 「地域における公益的な取組」のさらなる展開を

地域共生社会の実現を主導する社会福祉法人の姿

「地域における公益的な取組」の積極的な発信を!

- ◆ 社会福祉法人においては、多様な取組を展開しているにも関わらず、地域における公益的な取組として認識されず、十分な発信をしていない状況も見受けられます。
- ◆ その結果、社会福祉法人の姿が、地域住民をはじめ社会にきちんと伝わっていない側面があるため、自らの取組を積極的に情報発信し、社会福祉法人の存在意義をPRし、社会福祉法人が向き合っている地域課題を社会全体で共有しましょう!

「地域における公益的な取組」により地域共生社会の実現を推進しましょう!

- ◆ これまでの実践の延長線上で展開されている多様な取組が、地域共生社会の実現に寄与していることを再認識し、地域での包括的な支援体制の構築に向けて、取組のさらなる拡充をめざしましょう!

複数法人間連携とともに、自治体や社協との一層の連携強化を!

- ◆ 個々の法人の専門性を活かすとともに、複数の法人が連携して制度の狭間にある課題に向き合い、様々な地域づくりに関わる取組を推進しましょう!
- ◆ 市町村や社会福祉協議会との連携を一層強化し、地域共生社会の実現に向けて、包括的な支援体制の確立をめざしましょう!

社会福祉法人による「地域における公益的な取組」の社会的な効果、成果

- 1 地域課題の把握・気づき・掘り起こし**
 - ① 住民相互の交流の場・居場所づくり
 - ② 相談しやすい環境づくり
 - ③ 地域課題の発見と早期対応
- 2 制度の狭間にある課題に対する専門的、総合的な対応**
- 3 職員の意識・ソーシャルワーク機能の向上、人材の確保・定着**
- 4 ソーシャルワーカーの専門性や実践力の向上に資する実習機会の提供**
- 5 自治体や社協等との連携による地域づくりに向けた活動の活性化**
- 6 地域住民の理解促進**
- 7 地域における災害支援体制の構築**

地域における包括的な支援体制の確立

〈地域共生社会の実現〉



◆本委員会では、これまでに収集した実践事例等を通じて、地域共生社会の実現に向けて、「地域における公益的な取組」を展開するうえでの標準的な手順について、以下のように整理しました。

「地域における公益的な取組」の標準的な展開手順

① 地域ニーズの把握

- ◆通常業務を通じた地域ニーズへの気づき
- ◆地域住民や自治体、社協等との連携を通じた情報収集
- ◆住民を対象としたアンケートの実施等によるニーズ把握 など

② 取組の企画検討

- ◆自法人の既存機能（ハード面・ソフト面）とのマッチング
- ◆他法人、他機関との連携方策の検討

自法人の既存機能を活用する場合

自法人の既存機能では対応困難な場合

- ◆日常業務の延長線上での取組
- ◆頻度や予算など実現可能な取組 など

- ◆近隣法人、社協、地域住民等との連携、協力
- ◆会議室や車両といった設備等の提供 など

③ 取組内容の決定

- ◆実施体制（担当者、窓口など）の決定
- ◆他法人、他機関等との役割分担等の協議
- ◆人員、予算の確保

④ 取組の実施

- ◆地域共生社会の実現の視点からめざすべき成果の設定
- ◆地域住民や関係機関等からの評価も踏まえたPDCA
- ◆新たなニーズの掘り起し

⑤ 取組内容の発信、PR

- ◆現況報告書、事業報告書への記載
- ◆取組内容の発信に基づく地域住民との関係づくり（PR）
- ◆社会福祉法人としての存在意義の発信
- ◆潜在化している地域課題の社会化に向けた発信

- あくまで多くの事例に共通する手順をもとに整理したものであり、地域の実情や法人の理念、方針、体制などに応じて、独自の工夫が必要であると考えられます。
- 委員会報告書では、より効果的な取組につなげるための工夫やアイデアなど紹介していますので、ぜひ参照ください。

「地域における公益的な取組に関する委員会」報告書
https://www.shakyo.or.jp/tsuite/jigyo/research/20190322_koueki.pdf

出典：社会福祉法人 全国社会福祉協議会





地域で輝く**ふくしのチカラ** グランプリ 大賞
公益的取組事例集

発行 令和6(2024)年 3月

監修 栃木県
〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20
栃木県保健福祉部保健福祉課
TEL 028-623-3047 FAX 028-623-3131
URL <http://www.pref.tochigi.lg.jp/>

編集 株式会社 TMC経営支援センター(受託運営)
〒329-3157 栃木県那須塩原市大原間西1-10-6
TEL 0287-67-0001 FAX 0287-67-3024
URL <https://www.tmc-jinji.com/>

<http://hukushinochikara-tochigi.com/>